

瀬戸大橋

■ 橋の概要

瀬戸大橋は、岡山県倉敷市と香川県坂出市の間を島内の高架橋をはじめとして、海峡部に架かる3つの吊橋、2つの斜張橋と1つのトラス橋で結ぶ道路鉄道併用橋で、1988年に開通しました。道路鉄道併用橋とは、文字通り、自動車のほかに鉄道も通るはしを意味します。当初の計画では、線路が4本ある複々線として在来線の瀬戸大橋線のほかに、新幹線も通す予定でしたが、現状では暫定的に在来線のみが橋を渡っています。なお、完成当時、瀬戸大橋のうち最も四国側に位置する南備讃瀬戸大橋の主径間長は、道路鉄道併用橋としては世界最長でした。

橋の形式と、その規模を表す主径間長は、以下の通りです。(写真は手前が本州側です。)

- ・下津井瀬戸大橋(張出径間付単径間補剛トラス吊橋, 940m)
- ・櫃石島橋(3径間連続鋼トラス斜張橋, 420m)
- ・岩黒島橋(3径間連続鋼トラス斜張橋, 420m)
- ・与島橋(連続トラス橋, 本州側より 125m+137m+175m+245m+165m)
- ・北備讃瀬戸大橋(3径間連続補剛トラス吊橋, 990m)
- ・南備讃瀬戸大橋(3径間連続補剛トラス吊橋, 1100m)

■ 撮影者からひとこと

瀬戸大橋は、2004年8月14日にデジタルカメラで撮影しております。撮影当日は、夏休み中で、橋を見物に来た観光客が多かったことを記憶しております。撮影当時で、完成から既に15年以上が経過したこともあるためか、瀬戸内海国立公園の1つのランドマークとして、風景に溶け込んでいるように思います。写真の撮影は、鷺羽山の中腹展望台、中腹から山頂までの道中、鷺羽山山頂、下津井瀬戸大橋下、(以上、瀬戸大橋東側)下津井田ノ浦地区、および倉敷市立下津井中学校校門付近(以上、瀬戸大橋西側)で行っております。私が小学生の頃は、瀬戸大橋は建設中であり、バス旅行で何度も工事現場に行ったことが懐かしく思い出されます。また、その当時は、大学で吊橋の研究をすることになるなど夢にも思っておりませんでした。

■ 撮影者

大阪大学大学院 工学研究科 地球総合工学専攻 社会基盤工学部門

特任助手 三好 崇夫

〒565-0871

大阪府吹田市山田丘 2-1

大阪大学大学院工学研究科

地球総合工学専攻 S1 棟 628 号室

TEL : 06-6879-7599

FAX : 06-6879-7601

E-Mail : miyoshi@civil.eng.osaka-u.ac.jp